

令和6年度 金城大学・短大合同研修会/幼児教育学科専任・非常勤合同研修会 報告

1. 日時：2025年3月1日（土）10:00～12:00【公開講演会】  
13:00～15:00【学内研修会】
2. 目的：保育者の専門性として子どもの遊び支援の力量が求められる。しかし「子どものあそび」の捉え方はそれぞれであり、授業担当者により差異が生じることが予想される。来年度からは、短大部の特化教育が「子どものあそび」に焦点を当てた内容に変更になることもあり、ここで本学の保育者養成に関わる者全員で「子どものあそび」について共有する研修会を行う。

3. 【公開講演会】

テーマ：「自発的な『あそび』を通しての保育」

講師：戸田雅美氏

（東京家政大学教授、日本保育学会会長）

場所：金城大学医療健康学部棟 104 教室

出席者：一般 18 名（保育者）、

たんぱりんスタッフ 2 名

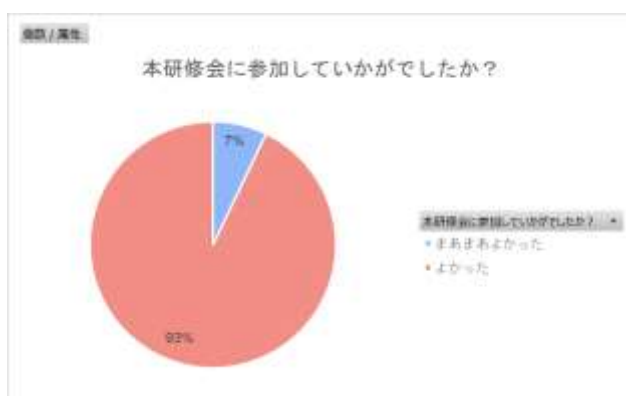
大学教員 5 名、短大教員 10 名、非常勤講師 1 名、大学生 1 名、短大生 62 名

計 99 名



＜アンケート結果＞（短大教員、短大生除く） 回答 14 名 ※短大生は別途課題提出

Q. 本研修会に参加していかがでしたか？



Q. 本講座の感想をお聞かせください。（抜粋）

- ・改めて子どもの力ってすごいと感じたのと保育者だから何か教えてあげなければならない！ではなく子どもの様子や言葉を受けてどう展開していくか、一緒になって考えること、本気で遊べる環境作りをすることが保育者の役割だということを改めて感じました。

・実際の保育現場の写真やエピソードを基にお話くださって、学生にとっても私たちにとっても凄く勉強になりました。

・今回の講座を受講して、子どもが本気で遊びこむことの重要性を改めて感じました。子どもたちは周りの遊びを観察しており、お互いの遊びへの意欲を高めていくことにつながるのだと学びました。保育者は遊びの広がり进行想定して、さまざまなしかけの用意に加え、適した言葉かけを行っていく必要があると改めて感じました。

・子ども達がやってみたいと思うことが実現できる保育環境（人的物的）であることや子どもものつぶやきをキャッチできる保育士であるように心がけて行きたいと思った。

・自分の園の遊びの姿を重ねて見ることができ、凄く自分たちの学びになりました。主体的、対話的で深い学びをこれからも子どもたちと一緒に楽しみながら実践していきたいと心から思わせていただいた学びの深い研修となりました。

・大変良いお話でよかったです。このような講座は保育を学ぶ学生にもっとたくさん聞いてほしかったです。具体的でとてもわかりやすいお話しでした。自分がしてきた保育に対しても振り返ってもう一度保育現場に立ちたいと思うくらいでした。また、保育現場と小学校を繋いでいく中で、小学校の教員にも聞いてほしい内容でした。小学校との連携が難しいなか、このような講座を通して保育現場を知ってほしいと感じました。

#### <所見>

現職保育者、大学・短大教員、短大生と様々な立場が参集し、焦点をどこに当てて話をするか講師も難しかったと思われるが、講師の温かな雰囲気と保育現場における子どもの遊び風景の事例を多く取り入れた内容で、どの立場の参加者も学びの多い充実した時間になったようだ。

特に主催側としてうれしかったことは、短大1年生のレポートの内容から、講演内容の主旨を的確に捉えている者が多くいたことである。

講師も感心していた。本講演の内容が、1年生にとって1年間の学びの積み重ねの集大成となったように思う。



#### 4. 【学内研修会】

テーマ：「公開講演会を受けて“あそび”について深める」

助言者：戸田雅美氏

（東京家政大学教授、日本保育学会会長）

場 所：金城大学医療健康学部棟 211 教室

出席者： 大学教員 4 名、短大教員 9 名      計 13 名

##### <内容>

午前の公開講演会の内容を受けて、グループに分かれ、以下の項目による田の字法を行った。

- ①午前の講演で印象に残ったこと
- ②確認したいこと
- ③講師への質問
- ④（今日の学びを）今後こういう風に活かしていきたい

講師への質問については、

- ・あそびに「良いあそび」・「悪いあそび」はあるのか？
- ・幼少期にあそび体験の少ない学生への指導は？
- ・異年齢保育をしていて、年長児が年少児につられて伸びる可能性をつぶしていることが起こっているような気がしているが、どうすればよいか？

などが挙げられ、講師から具体的なアドバイスを受けることができた。

大・短の保育者養成に携わる教員が、全員で話題を共有でき、今後の学生養成に意欲を湧かすことができた研修であった。

